



山頂から牧馬峠を目指して進むも峠が現れない。山頂から約1時間経過後に道迷いに気づいたがそのまま下山することにした。

送電線を見つけて道迷いに気づく

脱出

ルートは推測

時間も無いため、急いで進む。北東の方角へ向かわなければならないのに、コンパスは東を向いたままだ。そして、いずれ見えなくなるはずの焼山が進行方向右側、茂みの奥にいつまでも見えている。予め地図で確認していた予定のコースには送電線も鉄塔も存在しない。引き返すことも考えたが歩き始めてから1時間、大分歩いてしまった。しかも山頂前のあの急斜面を登る気力が残っていそうに無い。尾根道を歩けばいずれ人里に行く。そう思ってしまった私は、ひたすら尾根道を歩く。だが、道はどんどん険しく、そして不明瞭になる。

今回はバリエーションルートを通るということで道が荒れていても気にしなかった。変だと思っても自分の腕が未熟だと決めつけて事態を悪化させ、自分を疲れさせ、判断力を奪い、悪い方向へ、谷底を下り川を渡河するという最悪の事態へ導いた。（HP参照）

山頂から違う尾根に進み、道迷いをする事例は多い。山頂でコンパスを使って方向を示すことで道迷いを防げるのだが、実際にコンパスを使っている登山者をあまり見ない。また、「あれっ？おかしい？」と思ってもそのまま下山する事例は非常に多い。「根拠のない行動」は遭難への近道である。